

## 熊野市育生町における窯焚き体験と実践 -文化継承に着目して-

### 【概要】

- ・ 三重大学の学生による地域貢献プロジェクトの取り組み
- ・ 熊野市育生町では陶芸家の先生が古来の方法（窯焚き）で陶芸作品を制作し、地域の伝統行事を支えているが、後継者はおらず、地域内外の人たちがボランティアで先生の取り組みを守っている状況
- ・ 窯焚き活動に実際に参加して、古来の窯焚きの方法を記録してデジタルアーカイブの資料として残し、また、窯焚きの参加者を募集する動画の作成に取り組んだ

### 【活動内容】

- ・ 現地で作陶体験をし、秋の窯焚きの活動に参加したり、窯焚きの取り組みについて先生や地域のボランティアの人たちにヒアリング調査を行ったりして、窯焚きのデータを収集
- ・ 学内では、週2回、昼休みに集まってデータ整理や資料作りを行ってきた。
- ・ 昨年12月の教育学部150周年記念シンポジウムでポスター発表
- ・ 2月15日に現地にて活動の報告会を行って、地域の人たちの感想やニーズをヒアリング

### 【今後の展望】

- ・ デジタルアーカイブの資料制作を引き続き実施
- ・ 動画の数を増やす&発信する
- ・ 次年度の活動メンバーを募集

### 【用語解説】

窯焚き：アカマツなどの薪を用いて数日～1週間かけて1300度超まで昇温させ、炎と灰の自然な力によって、同じものが二つとない独特の風合いを持つ作品を生み出す生み出す陶芸技法。



### <本件に関するお問合せ>

三重大学教育学部 横山真智子  
TEL：059-231-9303  
E-mail：yokoyama@edu.mie-u.ac.jp

# 熊野市育生町における 窯焚き体験と実践 文化継承に着目して

---

IKOLLYEサポーターサークル代表

砂原菜々美 高原優佳

(三重大学教育学部 2年)

# 発表内容

1. 童心窯の取り組み（窯焚き）の紹介
2. 窯焚きの課題とその解決案
3. 実際の活動の様子①～③
4. 学んだこと
5. 今後の取り組み

# 童心窯の取り組み

## 場所

三重県熊野市育生町（山間地域）



世帯数 99

人口 159人

面積 29km<sup>2</sup>

(令和7年4月30日時点)

## 童心窯とは



<https://smout.jp/plans/11343>より引用

- ・陶芸家(信楽焼)の先生がご自身で作成された穴窯
- ・年2回（春と秋）、陶芸作品を焼き上げる。  
(※人の手で薪を5日間夜通し火を絶やさずにくべ続ける。)
- ・移住者と地域の人、地域外の人（大阪や東京など）が参加する珍しい取り組み

## 現状

育生町にある大森神社のどぶろく祭りの作品を提供して、地域のお祭りを支えているが、後継者がいない。10年ほど前に先生が高齢のためにやめようとしたところ、地域の方々が地域文化となっている取り組みや、古来からの技法を絶やしたくないと、「窯焚きサポーター」をボランティアで募集し、窯焚きが継続できるようにしている。

# 窯焚きの課題とその解決案

## 地域課題

- ① 育生町に地域外の人を呼び込む**地域の文化を支える童心窯の取り組み**が途絶えそうになっている
- ② 窯焚きという古来の技法の継承

## 解決案

自分たちがボランティアとして参加して担い手となるだけでなく・・・

- ①取り組みについての**写真やPR用の動画を作成し、youtubeやインスタグラムで発信**  
➡ 窯焚きサポーターの人数の増加や先生の跡継ぎ探しに貢献

- ②**窯焚きについてのデジタルアーカイブの資料を残す**

- ・写真や動画などで手法を記録
- ・過去の窯焚きの温度の記録（紙媒体のもの）をデジタル化

➡ 仮に先生の跡継ぎが見つからず、一時的に途絶えても、この資料を元に復活させることが可能となる

紀要論文として  
大学で残せる形を  
目指す

# 実際の活動の様子①：窯焚きへの参加



最高温度**1253°C**！



- ・ 5日間、交代で参加
- ・ 参加者の方たち 2～3人体制
- ・ アカマツの木を使用
- ・ 温度の上昇の仕方に応じて木を入れるタイミングや量を調整



温度の記録や、教えていただいたこと、気づいたことをメモ

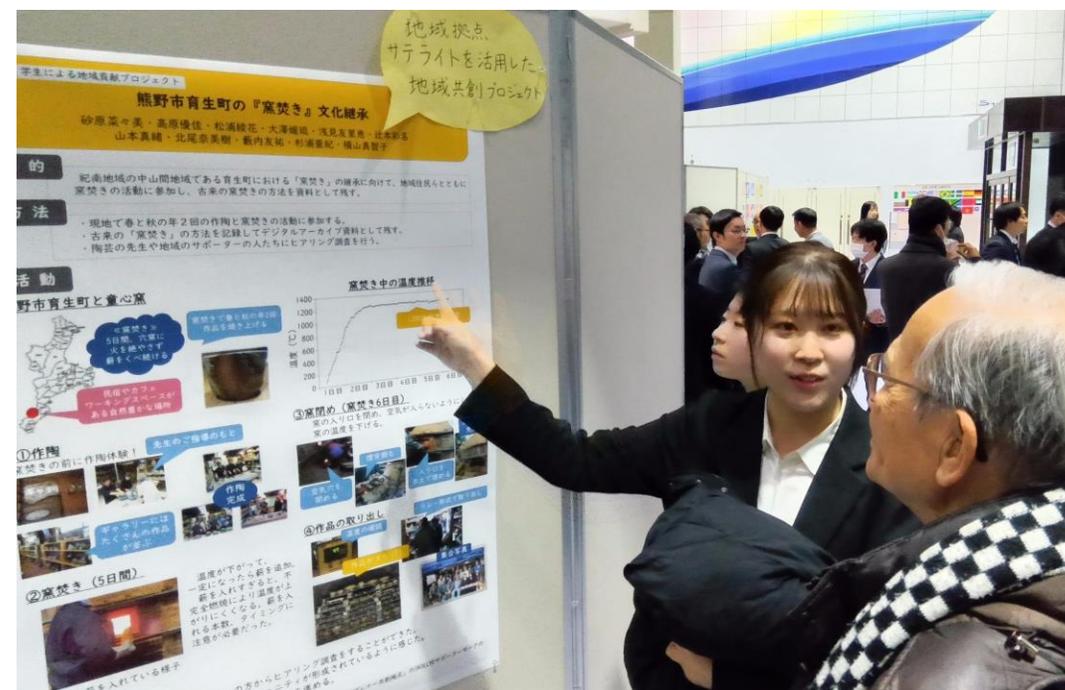


# 実際の活動の様子②：PR活動

## 教育学部150周年記念シンポジウムでポスター発表

日時：2025年12月13日（土）16時～17時半

場所：三重大学ホワイエ



# 実際の活動の様子③：活動報告・振り返り座談会



地域の方と活動を振り返りました

窯焚きボランティアを募集する動画



ポスターを共有

制作した動画

# 実践活動から学んだこと

- 窯焚きの作業では温度が下がって一定になると薪を追加し、逆に加えすぎると不完全燃焼により温度が上がりにくくなる。
  - 薪を加える本数やタイミングに気を付けなければならなかった
  - 先生や参加者の人からアドバイスが必要だった
- 大量の薪が必要となる
  - 薪割りボランティアも必要
- 炎が温度によって音や動きが異なることに驚き、燃え広がることの怖さを感じた
- 窯焚きは単に作品を焼き上げる目的以上に、その場に集まる人たちと時間を共有することが魅力的だった。
- 普段接しない年齢の人たち（中山間地域の人たちや地域外の人たち）と交流できたことで人生観が広がった

# 今後の課題

- 制作する動画の数を増やす & 発信する
- 窯焚きの方法を文書としてまとめるには、必要なデータがない箇所があるので、今年のGWの窯焚きに参加してデータ収集を行う
- 活動メンバーを募集

ご清聴ありがとうございました

